

数字で見るIMF

国際通貨基金(IMF)は、経済を安定させて、モノやサービス、お金のやりとりを安心してできるようにして、世界経済の成長を支える国際機関だよ。



設立が決まったのは

1944年

「ブレトンウッズ会議」で合意したんだ

参加している国は

190か国

日本は1952年に
53番目の参加国になったよ



大きな会合が

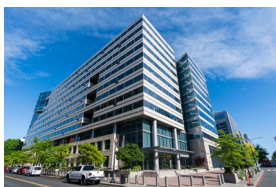
年2回

毎年春と秋に各国代表が集まり
世界経済の状況などを話し合うよ



働いている人は

約160か国から
約3,100人



本部はアメリカのワシントンD.C.



日本がIMFに出している金額は

世界2位

IMFは参加国がお金を出し合うことで成り立っているよ。各参加国が出すお金の割合が決まっていて、日本は2番目に多いんだ。

IMFクイズ

このリーフレットに書いてある文章をよく読んで、クイズを解いて、キーワードを見つけよう。ひらがなで答えてね。

問1. IMFが年2回出していて、世界や各国の経済成長の予想を公表しているレポートの名前は、「せかいけいざい〇〇〇〇」

問2. IMFには、国にお金を貸す役割があるね。最近IMFがお金を貸したアジアの国はどこ？

問3. IMFの正式名称は「〇〇〇〇〇〇ききん」

3つの□をつなげてできるキーワードは…

キーワードをスタッフに伝えて
IMFグッズを手に入れよう！

考えてみよう！

*100年後は どんな世界？



IMFのことをもっと知るには

ホームページで最新情報を確認してね。



こくさいつうかききん アイเอ็มエフ
国際通貨基金(IMF)は
せかいけいざい あんてい
世界経済の安定のために
かつどう こくさいきかん
活動する国際機関です

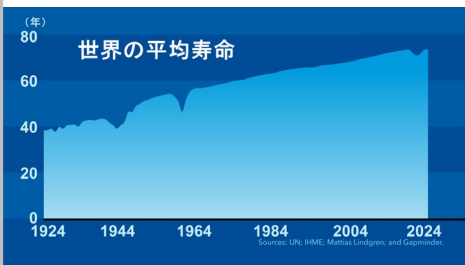


REGIONAL OFFICE FOR
ASIA AND THE PACIFIC

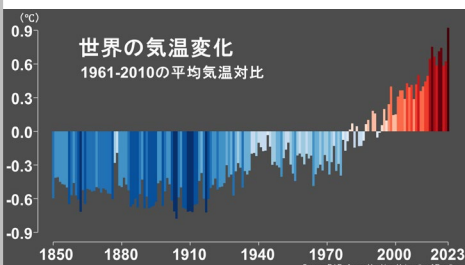
世界の歩み

これまでの100年で世界はどう変わった？

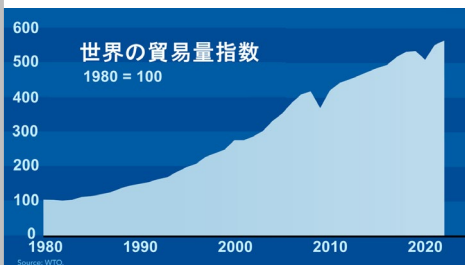
平均寿命 100年前の1924年、人は**40歳**ぐらいまでしか生きられなかったんだ。今は、生活がよくなり、平均して**70歳**まで生きられるよ。



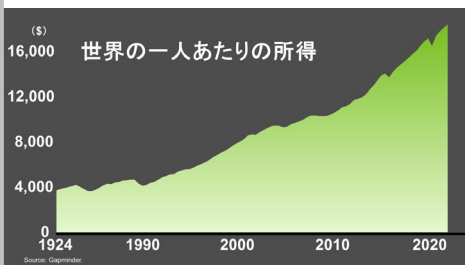
地球温暖化 最近の世界の平均気温は、1961年から2010年の気温と比べて、**1度**ぐらいあがっているよ。暑い日が続くわね。



貿易量 1980年から2024年の間に、世界のモノやサービスのやりとり(貿易)は**6倍**に増えたよ。グローバル化が進んだね。



生活水準 世界の生活水準は、この100年で**8倍**になったよ。国民一人一人の経済的な豊かさが上がったんだ。



これからの100年はどうなるだろう？ 考えてみよう！

人は何歳まで生きていけるだろう？

グローバル化がもっと進んでいる？

テクノロジーをどう使っているかな？

地球温暖化はどうなっているかな？

格差はなくなっているかな？

平和な世界になっている？



過去

1944

IMFの歩み

IMF設立

1930年代の経済政策の失敗の反省から、1944年にアメリカ・ブレトンウッズで開かれた国連会議で、IMFを作ることが決まったよ。世界経済が成長して安心してお金のやりとりができるように、各国が協力しようとしたんだ。

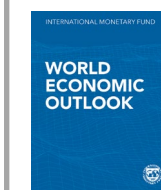
初めてのIMF総会の様子 ▼



IMFは何をするの？

- 政策アドバイス**
国の経済状況を分析してアドバイス
IMFは、毎年各国を訪れて、経済の状況に関する情報を集めて、レポートにまとめているよ。
- お金の貸し出し**
国が経済危機に直面したときにお金を貸す
最近では、借金を返せなくなってしまったスリランカに、IMFが緊急でお金を貸したよ。
- 能力開発**
技術や知識を教えて各国政府の能力を強化
例えば、アジアの若い官僚が日本の大学で勉強するプログラムを運営しているよ。

ニュースに出てくる



IMFは、春と秋に「**世界経済見通し**」というレポートで、世界や各国の経済成長の予想を公表しているよ。追加で夏と冬に改定版も出すんだ。



現在のIMFトップの専務理事は、**クリスタリナ・ゲオルギエバ**。ブルガリア出身なんだよ。カラフルなジャケットがトレードマーク！

IMFが目指す世界

IMFはこの3つの分野に注目しているよ。SDGsが目指す世界とも重なるね。

気候変動

気候変動が経済に悪影響を与えているので、気候変動対策への投資を増やすことが大切なんだ。



「人」への投資

健康と教育への投資は、経済を強くすることにつながるよ。人口が増加するアフリカの成長がカギ！



テクノロジー

テクノロジーは私たちの生活、仕事、移動、コミュニケーションの方法を変えてきたね。人工知能(AI)のリスクを理解し、AIのメリットをなるべく多くの人たちが得られるようにする必要があるよ。



現在

2024

未来

2124